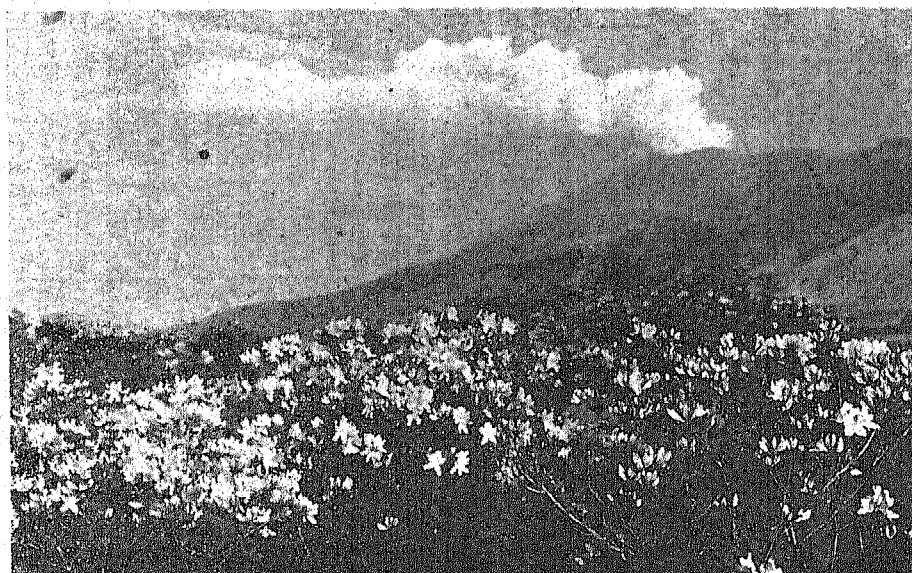


東千曲會報

昭和十七年六月二十五日

第十七號

社団法人千曲會



目次

- △政戰所感……………衆議院議員 間宮成吉(二)
- △南方資源と化學工業……………稻垣英吉(二)
- △私の近況……………森田三郎(三)
- △實習所感……………金澤幸男(三)
- △短歌……………不知火生(四)
- △科學點描……………(四)
- 戰爭用自轉車自動車のバンク防止
- ロケット飛行機の出現
- 最近の合成樹脂
- 人造纖維の分類
- 溫湯の中に咲く穗
- 電子顯微鏡の出現
- △母校便り……………(五)
- 卓球班松高に快勝
- 報國團勤勞作業
- 修練日の文化講演
- 信武會巡回講演
- △地方通信……………(五)
- 加美好男氏胸像成る
- △本會記事……………(五)
- 本會日誌
- 遠藤先生退官記念品受領報告
- 會費領收
- △敍任辭令……………(六)
- △訃報……………(六)
- 形慰金募集
- 戰死會員遺族よりの禮狀
- 弔慰金報告
- 土屋久雄君のことども 狸山長尾
- 御令兄よりの御挨拶文…編輯部
- 飯田省三氏戰死報…編輯部
- △會員動靜……………(七)

政 戦 所 感

大政翼賛會岐阜縣支部庶務部長

衆議院議員 間

宮 成 吉

今回の衆議院議員の總選舉に岐阜縣の第三區から立ちましたところ同窓の皆様から色々ご御援助を賜りました事は全く感激に堪へません。

私はまだ三年前に縣會に當選したばかりで、まだ縣會一期も過ぎない政治方面では全くの新兵です。それに定員三名の中

牧野、古屋兩代議士は大臣級の大物で實は残る一人を争ふ云ふ仲々事實上の激戦の選舉區です。候補者は七人で多い方ではありませんが事實は想像以上の争ひでした。それに他の五人の連中は私を攻めるより出る



(影 近 の 氏 宮 間)

戦術がありませんので、聯合軍で私の地盤を思はれる方面を總攻撃をやりましたので一時は仲々の苦戦に陥りました。私も多い日には一日十八回も演説會をやりまして言論戦は激烈を極めました。一つの町で同じ晩に三人四人の候補者が演説會をやつた事もありました。幸ひ結果からみて次點三千票近くも引離して當選しました事は全く豫想外でした。

政治をやるにも選舉云ふ節があるので仲々骨です。然し私は社會の總合的批判は結局公平だと思ひます。私は常に事に當つて一つの信念を以てを

ひます。月給や地位のほしい様な乞食根生は出しではなりません。硬骨を以て誇りとする上田氣風を味つて下さい。學問なり腕なり出来る人物になれば金や地位や名譽は他人が持ち込んで困る様になります。金や地位をほしがらる間はまだ修養が足らん證據だと思へば何んでもありません。卒業後まづ二十年位は國家の小使のつもりで、ごんないやな仕事でも喜んでやり抜いてみなければ光がいません。私も組合製絲長良社を一手に引受けた當時は全く正門で割腹する氣で正論を曲げなかつた事もあります。今日から視れば

正しい行き方だつたと思ひます。私は針塚先生の清廉潔白人格さ井上先生の學究的熱烈なる御努力さは今尙常に思ひ起して私自身を鞭撻してをります。私の政治生活はこれからです。正しい度胸で進むつもりです。戦時下やる可き仕事はどの方面も山程あ

南方資源と化學工業

稻 垣 英 吉

持てる國米英は天地人共に許さざる不合理なる世界地圖を維持せんとし、東亞民族否世界民族の共存共榮の大理想をもつ我に對し總ゆる迫害を加へたのである

務であり、又我等の幸福であるのである。愚見をのべたいと思ふ。

我は之に對し出来る限りの外交交渉によつたのであるが、彼等は脅迫するのみで何等我等の大理想を理解せず、我等を武力で抑へんさるる態勢を至るに至つた。こゝに於て止むを得ず、畏くも昭和十六年十二月八日露露の御勅語が下り、電光石火彼等に大打撃を與へ、其の後着々戦果は擴大され必勝の態勢を整へるに至つた。就中米英垂涎の的であつた蘭印比島、マレーは攻略せられ、我が有に歸した。然れども之を以て彼等が白旗を掲げる筈がなく更に劍を磨いて我に挑戦するは明かであり、今後大東亞戦争は何時果つべきか判らない状況である。こゝに於て我等は南方資源を開發し、大東亞共榮圈の民族の繁榮、幸福を圖るに共に執拗なる彼等に鐵槌を下すべき好機を掴み以て世界人類の平和を全うする事こそ、我等大和民族に課せられた天の賦與した使命であり、資源開發利用を講ずるは實に我等化學業にたづさわる者に對する義

ります。千曲會の全同窓は區々たる小事に拘らず大局に注目して腹の底から御國のためにやろうではありませんか。紙上で御禮を云ふ事は許されませんが、意を盡し得ない事を残念に思ひますが、將來何卒御指導下さる様御願ひ申上げます。(筆者は蠶七回卒)

石油は平時は勿論戰時絕對不可欠の重要物資で今次大東亞戰爭直接の原因をなしたものである。戰前蘭印では約七百萬噸即ち世界五位の產油があり英領ボルネオ約百萬噸云はれた。而して大部分はガソリン分三十%以上を含む輕質油である。勿論之等諸島が確保されたことは云へる。船腹の不足、敵の焦土戰術による油井、精油所の破壊、將又精製用苛性ソーダの不如意等により早急に全部を利用出来るものでもない。一方戰時の石油消費量は〇〇〇〇萬噸云はれ樂觀は許さない。出来るだけ速かに少なくも戰前の產油量に漕ぎつく事はもとより、推定埋藏量三十億バーレル云はれるボルネオの未開發油田の開發が重要であり、他方將に大飛躍せんとする人造石油工業の育成こそ化學技術者の益々努力せねばならない處である。

ゴムはマレー、蘭印を中心として百五十萬噸即ち世界產額の九十%を輸出してゐた。從來本邦生ゴムの消費量は精々〇

○噸であり、共榮圈全部貯ふにしても十五萬噸あれば充分である。此の過剰ゴムを如何に處理すべきであらうか。此の事は直ちに南方統治問題と密接な關係があり國家としても逸早く之が對策を研究せられざるが、兎も角將來の飛躍に備へて優良ゴム林を確保し一定數のゴム採取熟練工を残す事が大切で、船腹やゴム工業の副原料も當然問題となるが、從來のゴム製品の使用を擴張するに共不足資源の金屬や綿の代用品とする事も考へられ一方化學工業原料としても研究されてゐる。例へば燃料、溶劑、樹脂、人造纖維で十分見込はある。ゴムのやうな彈性ある高分子化合物は貴重な物質の一つであり、かなり高價であるが一步進めて益々生ゴムの生産を高め國家必需の物資を作り出す事も大いに考へねばならない。一方將に生れ出んとしてゐる合成ゴムは天然ゴムの過剰に拘らず其の獨特の性質のため發展するものも考へられる。

砂糖は比島ジャバ各々百五、六十萬噸生産され臺灣の百萬噸を遙かに凌いでゐる。大體共榮圈として二百萬噸の生産過剰が推定せられ、之が對策として甘藷糖の綿作と新規工業が考へられる。先づ砂糖の醱酵によるアルコールは普通燃料に供せられる。又最近高オクタン價ガソリンとしてのイソオクタンの製造が盛んに研究されブタノールは此の方面の原料として重要であり、砂糖のブタノール醱酵は充分成功の見込みがある。又油脂原料が欠乏したときのグリセリン製造原料としても重要である。

椰子油即ち椰子の核肉を乾燥したコブ

ラから採る油は蘭印比島を中心として約百萬噸の産出があり此の大部分は過剰資源となる。元來椰子油は石鹼原料として獨特の長所があり、又適當に處理して優秀な浸透劑、洗滌劑が得られる。食料油にしても勿論よく又マーガリン等の原料となつたのである。併し之等のみでは生産過剰であり、何か適當の用途が必要で例へば潤滑油の製造が考へられる。

マニラ麻は比島タバオを中心として邦人の苦心慘澹して開發したもので約百三十萬俵ある硬質纖維の代表的なもので濕潤強力が大きい。従來船舶用ロープとして賞用され、又其の廢物は和紙又は上等紙の原料として珍重された。併し之等の用途のみでは消費し盡されなから新用途として先づ外來輸送用に困つてゐる麻袋代用品とするもよく、又ステープルファイバーとして混紡し夏服地を作るもよいだらう。

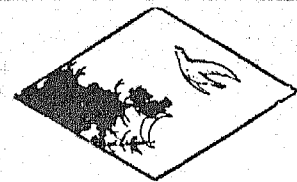
サイザル麻は蘭印で六十萬俵得られるが之を包装用材料、衣料原料として纖維資源不足の折柄重要なものである。

ボーキサイトはマレーに到る處にあり例へば昭南港はボーキサイトの上に出来てゐる云はれる。アルミニウム、デューラミン原料として戦時下日本に對し極めて重要である。

以上種々の資源について述べ來つたが尙米、キニーネ、マンガ、錫等の多數の重要資源がある。我々化學工業にたづさはれるもの、須く研究し、之等資源を開發利用し國力の涵養に努め、以て世界人類平和のため此の大戦争を完遂する事を聖慮を安んじ奉るものであると信ずるのである。(完)(筆者は現賛助會員)

私の近況

森田三郎



隨筆

昨年八月四日根の生へた長野縣生絲共同施設組合を退社して、日本蠶絲統制株式會社へ轉じ、十二月一日から同社横濱支店に勤務してゐます。

轉職の挨拶は當時長野野共同組合員に後任者の高木君と連名で出したのみで他は一切出さず、缺禮の段は平に御寛恕願ひます。實を言ふと社員として統制會社へ入ることは堅く御断りしてゐたのですが、先輩や友人の勧める時は聽いて置くべきだ云ふ信條から快諾した次第です。横濱支店長は餘り知り過ぎた仕事だけに氣樂なやうで反つて遣り難い、河童水に溺れる譬もあること、戒心して勤務してゐる次第です。

私の趣味はゴルフと讀書と小禽です。辛いものも甘いものも人一倍楽しむ方で勿論極めて健康です。この恵まれた人生を心から感謝してゐます。就中ゴルフには心酔です。一昨年秋頃から順に衰へたある要求に反比例して非常に興趣を増した五六年間据置だつた十六のハンディーがこの頃進んで数日前には十二となり尙一段上進の自信あり、張切つてゐます。ボ

ツボツ下り坂なるべき齡頃になつて大に若返つてゐる次第です。讀書は毎月四六版三冊、千頁程度を主として汽車電車内で讀む癖になつてゐます。勿論老眼鏡は絶対に離せません。書籍の種類は實に廣範圍で讀みませんが肥へた云ふのか撰擇には相當苦心してゐます。經濟や、修養、歴史方面はこの頃厭いた。最近二ヶ月間に讀んだものは中西悟堂氏の「野鳥と共に」デコブラ氏の「印度旅行」バルザックの「純愛」中屋健次氏の「ヒリッピン」仁部富之助氏の「野の鳥の生態」で今この第二巻を讀んでゐます。

小禽の飼養は小供の頃から續けてゐる道樂である。數年前は鷹、九官鳥、イカル、ホホジロ、メジロ、ウグヒス、ヒガラ、ヤマガラ、アカヒゲ、コマドリ、ルリ、カナリヤ等を飼つてゐたが時間と飼料の關係やら、鳴禽類は一度失ふと補充が困難なのでこの頃では小禽五羽のみを飼つた。機會を見て職を退き野鳥と共に暮したいのが私の念願です。家族は妻と慶應普通部在學中の三男と一昨年九月生れた長女と四人です。老いて生れた女の兒は可愛い。然し汽車中で「御孫さん」を間違へられたこともあり口の悪い友達に「御孫さんはさうだ」なき、訊かれるのは癪である。(一七・六・九記)(筆者は絲四回卒)

實習所感

學生鐵二 金澤幸男

私達は五月十三日春蠶蠶立、今將に上簇の期となつた。原蠶飼育とは云へ大變厄介な實習である。整然とした二號室の内には之の飼育特有の昇

短歌 不知火生

永水にメチルレットを入れられて赤々と鏡の如く。―春日は刻々と濃くなつて行く。静かさも最大であつた蠶室は破られて混然として眠はしき現物が出現した。一陳に三十数名の青年學生が月火水木金の七曜以上の訓練、猛訓練が代はるがはる展開されて来る當番表を見て私達は胸躍らせて何物かを誓ふのであつた。生物なる蠶兒を取扱ふ實習である。大東亞戦争の眞只中である―心はひき緊まりそして神聖であつた。

蠶室の空氣は現實を駭する事は出来ない。吾々は常に環境を生んで行く、そこに生れた現實は吾々の肉體と精神の行動に依り異なる事と思ひ、ほがらかな春日に若人の胸は鳴つて大自然の中に突入するのである。勝利の獲得はいかにか吾等の心理をなやまして自己主義の醸生が目ざましくなつて行く悪き夢の社會が出現するだらうか？私達は之を蹂躪して潰滅すべき使命に覆はれてゐる。

一貫して流れる疲勞となやみ午後十一時の給桑を終へて床に入るのが十二時或は一時頃になつて了ふ、朝は四時半起床だ。『給桑〜〜』と指導者の聲が心覺束なく耳に入る。肉體と精神の闘争はかくして毎朝展開されるのであつた。

清静の空氣に靜肅の朝に横びきて我等の肉體に聖の境地を與へるのである。初一念は斯く肉體と精神に逆襲されるのである。然しながら『現時下の青年がかくあつて然るか？』私達の心は更新するのである。

千波万波起伏する大自然に又偉大なる先輩を出だした蠶室に、皇道に、戦果に又先輩に恥ぢぬ生存を作り完全に自然と親しみ生物と生死を共にして自己の發見に人生觀の創作向上に邁進するのである。

(十七・六・十二記)



科學點描 (2)

戰爭用自動車自動車のバンク防止

戰爭に用ひられる自動車の寫眞を見て素人が感ずる疑問の一つはあの自動車のタイヤがどうしてつと頻りにバンクしないのだらうかと云ふことだ。答は次の如し。即ち普通型の空氣入りゴムタイヤは彈丸のためバンクすることが屢々なだ。實際世界中の陸軍が中空でありながら同時に敵彈に破壊されないタイヤを何とか作り上げたいものだと思つて來たのである。其の方法の一つがスポンジ・ゴムタイヤなどである、だがこれは不便も相當に大きい。所がセイバーリングゴム會社が新しく戰用車のタイヤにと、彈丸保護内チューブを創つた。これは可塑性ゴムを用ひるので彈丸がタイヤにあたつても、その穴が直に自動的に可塑性ゴムでふさがれる様に出てゐる。この設備をしたタイヤは三十口徑、五十口徑の機關銃の掃射に美事堪へたと云ふことだ。(科學人四月號「外國雜誌から」より)

ロケット飛行機の出現

從來の飛行機は空氣を利用してゐたが此れでは音速に近づくと抵抗を増すので最大速度

最近の合成樹脂

其の数は澤山あるが、實用的なものは十數種である。其のうち重要なもの及其用途をあげると

一、フェノールレジン(石炭酸とアルデヒドの縮合重合物) 純粹透明品、塗料、接着劑

二、ビニルレジン(ビニル誘導体重合物) 難燃性、耐藥品性、外觀美、機械的強度大、セロロイド代用、定規、録音盤、櫥、食器、著電池、電線被覆等に用ひ。

三、スチロールレジン

無色無味無臭ガラス様の強靱固体で特徴は誘電率損失が極めて少ない、輕い、現在高周波用の絶縁材料として不可欠のもの。

此等の外アルキッド「尿素系」ポリアミド、メタアクリル酸エステル樹脂等があり其の中には合成纖維材料として有用なものもある。(科學五月號より)

人造纖維の種類

米國のある纖維雜誌に依ると、人造纖維を染色反應によつて次の六部門に分類してゐる

(1) 純蛋白質纖維 例 ラニタール、チオラン、ラクトアイル

(2) 含蛋白質再生纖維 例 シザアルファ、フイブラミン

- (3) 動物質化或は塩基性化ビスコース人絹 例 レヨラング、アルテラナ、ゲイストラン
- (4) 合成樹脂纖維 例 ナイロン、ダイニヤ
- (5) 物理的變形化ビスコースス。フ 例 ゲイストラXT、ラヌーザ、フロックサラ
- (6) 纖維素誘導纖維 例 エソフィル、アセタ、テカ

温湯の中に咲く種

雌蕊は雄蕊に比して凡ての障害に對して抵抗力が大である―と云ふことを利用して稻の人工交配を行ひ容易に然かも能率的に品種改良をすることが發見された。其の方法は開花直前の成熟花を攝氏四十三度の温湯に五分浸し完全に花粉を死滅させて除雄を行ひ、成熟花のみが開花を誘起され、これと他品種の健全花粉を受粉する時は容易に交配を全うすることが出来る。此の方法を適當にすることにより雌蕊の受精能は少しの障害もなく目的を達することが出来る。(東日より)

電子顯微鏡の出現

電子顯微鏡は五十萬倍の擴大力がある。かつて極微細の世界として人間の視界から遠ざかつてゐた分子(巨大)やウイルス過激性病原體が此れによつて見られる様になつた。之の機械の出現によつて物質の構造や病原體の發見等も飛躍的發展を遂げるであらう。(科學五月號より)

本欄原稿募集

- 一、科學點描欄の原稿を募集します
 - 一、字数は三百六十字以内
 - 一、送先は本會編輯部宛
- 讀者各位

母校便り

卓球班松高に快勝

五月十七日松高卓球班を迎へ例年通り對校戦を交へた。單複計七組の對戦となり、成績は複は一對一、單は四對一にて結局五對二の壓倒的勝利に歸した。

報國團勤勞作業

勤勞報國精神の涵養、食料増産と併せて織作物の栽培實習を兼ねて次の様な日程内容のもとに菅平高原に於て集團勤勞作業を行つた。作業は各科擔任職員指導監督のもとに極めて規律的に行はれ學生の動作も時局を認識して緊張のうちに終始し有意義に完了した。日程左の如し。

- 第一班 糸一 小川助教授引率
五月十、十一、十二日
- 第二班 糸二 柳澤助教授引率
五月十二、十三、十四日
- 第三班 化一 佐原助教授引率
五月十四、十五、十六日
- 第四班 蠶一 町田助教授引率
五月十六、十七、十八日

宿舎 文部省菅平体育研究所
作業は三千坪の芝出しを行ひ、其の中の千六百坪を耕起して馬鈴薯、玉蜀黍、大豆等の食料作物、大麻、亞麻、洋麻、棉等の纖維作物の作付をなし、餘力を以て本校菅平修練農場及紀元二千六百年記念植林地の補植及手入等がなされてゐる。尙殘餘の土地には蕎麥作が豫定されてゐる。

修練日の文化講演

本年度より實施されることになつた修練科は肉體鍛鍊と精神鍛鍊を行ふ目的を以て毎週土曜日午後の二時間が此れに充てられた。其

のうち文化部の修練日として毎月一回が精神鍛鍊に充てられることになつた。其の第一回は五月二十三日次の催しがあり絹織維の戦時下に於ける重要性を認識し、又大東亞共榮圈に於ける經濟方面の構想を如何にすればよいかと云ふことに就いて知ることが出来た。

一、絹織維の將來 奥 教授
一、大東亞共榮圈經濟の構想 小泉教授

地方通信

加美好男氏胸像成る

新興人絹株式會社常務取締役技師長として人絹界に勇飛せられた加美好男氏(絲三回卒)の御逝去は昨夏本會報に依り既に報せられた處であるが、其の後間もなく故人の胸像建設の儀が同社員一同に依り計劃され、斯界の權威者分部順治氏に塑像依頼中であつたがこの程立派に完成を見、同社大竹工場に建立



信武會巡回講演

五月二十六日午後一時より四時迄信濃信武會左記兩少將によつて時局講演が行はれた。一、國境警備の苦心 馬場少將
一、大東亞戰と神國日本の使命 齋藤少將
馬場少將は人跡稀な嚴寒の地に自己を忘れて國境警備の任務に従事する將兵の苦心を話し齋藤少將は大東亞の由來より神國日本の使命を説き職員學生一同に多大の感銘を與へた。

本會記事

五月五日 土屋久雄氏名譽の戦死を遂げらる

された。こゝに不世出の偉人加美好男氏の生前の功勞を永久に稱へ偉徳を後世に傳へることになつた。こゝに入れた寫眞は即ちそれである。尙これと同時に小型胸像數基が鑄造され御遺族並に關係深き方々へ贈られた。因みに母校も像建設委員東山喜吉氏より寄贈を受け、やがて母校内加美氏紀念文庫内に安置せらるゝことになつてゐる。

迷藤先生退官記念品 贈呈資金受領報告 (六月五日)

金貳圓也 小松 茂久
右合計金貳圓也
累計金七百拾八圓也

會費領收 (六月五日)

昭和拾七年度會費金四圓也
西本 朝平(蠶五) 西村 國男(蠶元)
青木 茂美(絲天) 加藤 明(紡八)
柳澤 六平(紡六)
昭和拾六年度會費金四圓也
市川 信一(蠶三) 佐々木峰二(絲二)
未納會費納入者
金貳拾圓也(昭和六、七、八、九、十年度會費)
生井 精(絲六)
金四圓也(昭和十四年度會費)
細田 政吉(紡四)

準會費納入者

金壹圓六拾錢也(昭和十六年十七年度分)
美城 こう(舊教)
金八拾錢也(昭和十七年度分)
片山 幸(教七)
金壹圓六拾錢也(昭和十五、十六年度分)
田中 寛(教八)
金壹圓六拾錢也(昭和十六、十七年度分)
上原 一代(教八)

林、野口兩理事弔問せり
五月九日 飯田省三氏名譽の戦死を遂げらる弔詞を呈す
五月十二日 千曲會報發行兼編輯人變更届提出せり
五月廿三日 本會定款變更認可證受領す
五月廿七日 故迫繁氏の町葬執行せらる
本會を代表し宮崎千曲會會長會葬せり
五月廿八日 本會定款變更登記申請す
五月廿九日 會費未納者調査各支會長へ送附完納督勵方依頼す

叙任辭令

現職員之部
上田 蠶絲專門學校教授兼生徒主事 羽島不二夫
陸高等官六等(四月三十日)
李養生之部
長野縣岡谷工業學校教諭兼令監 金野 廣保
公立實業學校教諭ニ任ス 高等官七等待遇
岡谷工業學校教諭ニ補ス
願ニ依リ兼職ヲ免ス(以上四月三十日)
浦山 藤吉
地方農林技師
同 岸 勝男
同 岡村 源一
高等官三等待遇
同 田浦 準
同 金崎 眞英
同 福富 繁
高等官四等待遇
同 山崎 壽
同 山崎 傳
高等官六等待遇(以上五月一日)
公立實業學校教諭
七級俸當分千五百七拾圓下賜
公立實業學校校長 岩瀬 義夫
八級俸下賜(以上三月三十一日)
新潟縣農林技師八等 登坂 忠吉
地方農林技師ニ任ス 高等官七等待遇
新潟縣農林技師ニ補ス十級俸下賜(五月四日)
地方農林技師 同 人
願ニ依リ本職ヲ免ス(五月五日)
上原 清夫
五級俸下賜(三月三十一日)
公立實業學校教諭 中島 靜太郎
滿洲國へ出張ヲ命ス(四月三十日)
山形縣農林技師 井上 兵一郎
地方農林技師ニ任ス 高等官七等待遇
山形縣農林技師ニ補ス 十一級俸下賜(五月七日)
公立實業學校校長 日比野 一夫

八級俸下賜(三月三十一日)
地方農林技師 高島 秀男
願ニ依リ本職ヲ免ス(五月八日)
公立實業學校教諭 五島 眞喜太
七級俸當分千六百圓下賜(十六年九月三十日)
從七位(五月四日)
公立實業學校教諭 登坂 忠吉
五級俸下賜(三月三十一日)
小松原 德治
從五位(五月七日)
高島 秀男
地方農林技師 塩見 豊一
高等官四等待遇(五月十九日)
同 人
願ニ依リ本職ヲ免ス(五月二十日)
公立青年學校校長 佐村 和夫
八級俸下賜 年功加俸年額金百四拾圓下賜
(三月三十一日)
公立實業學校校長兼教諭 小野 正男
四級俸下賜(四月二日)
地方農林技師 鶴田 定平
願ニ依リ本職ヲ免ス
地方技師 同 人
六級俸下賜 長野縣勤務ヲ命ス(以上五月二
十七日)
從六位 塩見 豊一
從正六位(五月十七日)

本校辭令

願ニ依リ副手ヲ免ス(五月七日)
副手 武井 和夫
養蠶教師ヲ囑託ス(五月十日)
高田 正氣
副手ヲ命シ纖維化學科勤務ヲ命ス(五月二十
六日)
倉田 正一
副手ヲ命シ製絲科勤務ヲ命ス(六月三日)
北村 元三郎
副手ヲ命シ纖維化學科勤務ヲ命ス(六月八日)

計報

弔慰金募集

故 宮田 繁 十六
故 井上 皓 十六
故 朝長 泉 十六
故 古東 幹 十六
故 土屋 爲五郎 十六
故 飯田 省三 十六
以上八氏に對シ弔慰金を募集致します。
故 朝長 繁 十六
故 井上 皓 十六
故 古東 幹 十六
故 土屋 爲五郎 十六
故 飯田 省三 十六
以上八氏に對シ弔慰金を募集致します。
昭和十七年六月
千 曲 會

戰死會員遺族よりの禮狀

昭和十七年五月五日
小縣郡神科村 兄 土屋 順利
故 土屋 久雄氏
同 五月二十一日
廣島縣加茂郡川上村大字飯田荒六ノ一
故 飯田 省三氏 父 飯田 常登
同 六月五日
宮崎縣高千穂町 母 迫 松榮
故 迫 繁氏
五月二十七日町報執行せらる

弔慰金報告

(六月五日 在)
故 迫 繁氏弔慰金
金五圓也 花岡 政庫
金參圓也 松本 浩
金貳圓也 瀧澤 通
右合計金拾貳圓也
累計金拾六圓也

土屋久雄君のことども

狸 山 長 尾

皇戰はすゝみに進み生くる日々
微粒子吾のこれのゆたけき
私がこう歌ひ、皇戰の最中にある自分を自
覺してゐる時、私は親友土屋久雄君の戦死を
聞く。唯々驚く。不思議にそれまで悲しくも
なかつた涙も出なかつた。私には君の死を
考へることが出来ないからである。私の腦裡
に君の印象は餘りに鮮明すぎる餘りに生きて
ゐすぎる。自由子會の特異なタイプとして滿
洲の教育者となつた君はハルビンを舞臺に、
縦横に活躍したものだつた。語學の堪能な君
は満人をして、露人をして發音の上手さを驚
嘆させたものだつた。その中にはこんな話も
あつたやうに覚えてゐる。
「ほろにがき麥酒に溺れて「バカヤロ」と
喚びて若きわらひをかひぬ
君とこうよんで私は捧鍔をしなければな
らぬ境遇であつたし、中學校では後輩でもあ
る。然し何故か中尉殿と言ひ、土屋さんと呼
べない理由は、高師を共にうけて共に敗北し
それより時々私の家にレコード等を聞きに來
られた氣樂さからかもしれない。只今の校友
會歌は加子三郎氏の作であることは誰も知つ

故 井上 泉氏弔慰金
金拾圓也 渡邊 齊 佐藤 季子男 内山 鶴雄
金參圓也 本橋 萬三郎 手塚 政吉
累計金拾六圓也
故 古東 幹氏弔慰金
金貳圓也 小松 茂久
右合計金貳圓也
故 土屋 爲五郎氏弔慰金
金貳圓也 瀧澤 通 田村 朝之助
金壹圓也 山寺 豊一
右合計金五圓也
累計金六圓也

